

KOBELCO

TrueBlue KOBELCO
Evolution
Creating value, building a future and
changing the world

コベルコ建機株式会社
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

東京本社:〒141-8626 東京都品川区東五反田二丁目17番1号 ☎03-5789-2111
広島本社(広島事業所):〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港二丁目2番1号 ☎082-943-5321
大垣事業所:〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 ☎0584-89-3104

<http://www.kobelco-kenki.co.jp>



再生紙を使用しています

人と地球の未来を考える
コベルコ建機グループ

社会環境報告書 2014

コベルコ建機株式会社

CONTENTS

01 ● コベルコ建機グループの概要

02 ● トップメッセージ

03 ● コベルコ建機グループの経営とCSR

中期経営方針と戦略／CSR活動／企業理念

05 ● これまでの活動実績と今後の展開

07 ● 特集

CO₂排出量削減の取り組み

09 ● 2013 企業活動・CSR活動ハイライト

11 ● 環境保全活動報告

環境保全の取り組み／環境数値

13 ● 社会・地域活動報告

活動理念／継続的活動／国内・海外での活動

15 ● ステークホルダーとの関わり

お客さま・関係企業との調和／職場づくり・人づくり

17 ● コンプライアンス／コーポレートガバナンス

18 ● 社員メッセージ／編集後記

●報告書の対象に関して

【対 象 組 織】 コベルコ建機株式会社および、グループ関連企業を対象としています。

【対 象 期 間】 2013年4月1日～2014年3月31日
(一部2014年4月1日以降の情報を含む)

【報告書発行】 2014年5月

コベルコ建機グループの概要

●会社概要

会 社 名 コベルコ建機株式会社
英 文 社 名 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO.,LTD.
創 立 1999年(平成11年)10月1日
事業所所在地 □東京本社
〒141-8626 東京都品川区東五反田二丁目17番1号 TEL:03-5789-2111
□広島本社(広島事業所)
〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港二丁目2番1号 TEL:082-943-5321
□大垣事業所
〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 TEL:0584-89-3104
U R L http://www.kobelco-kenki.co.jp
資 本 金 160億円
代 表 者 代表取締役社長 藤岡 純 (ふじおか じゅん)
事 業 内 容 建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
従 業 員 数 1,096名(グループトータル6,544名)[2014年4月1日現在]
売 上 高 3,182億円(連結)[2013年度]

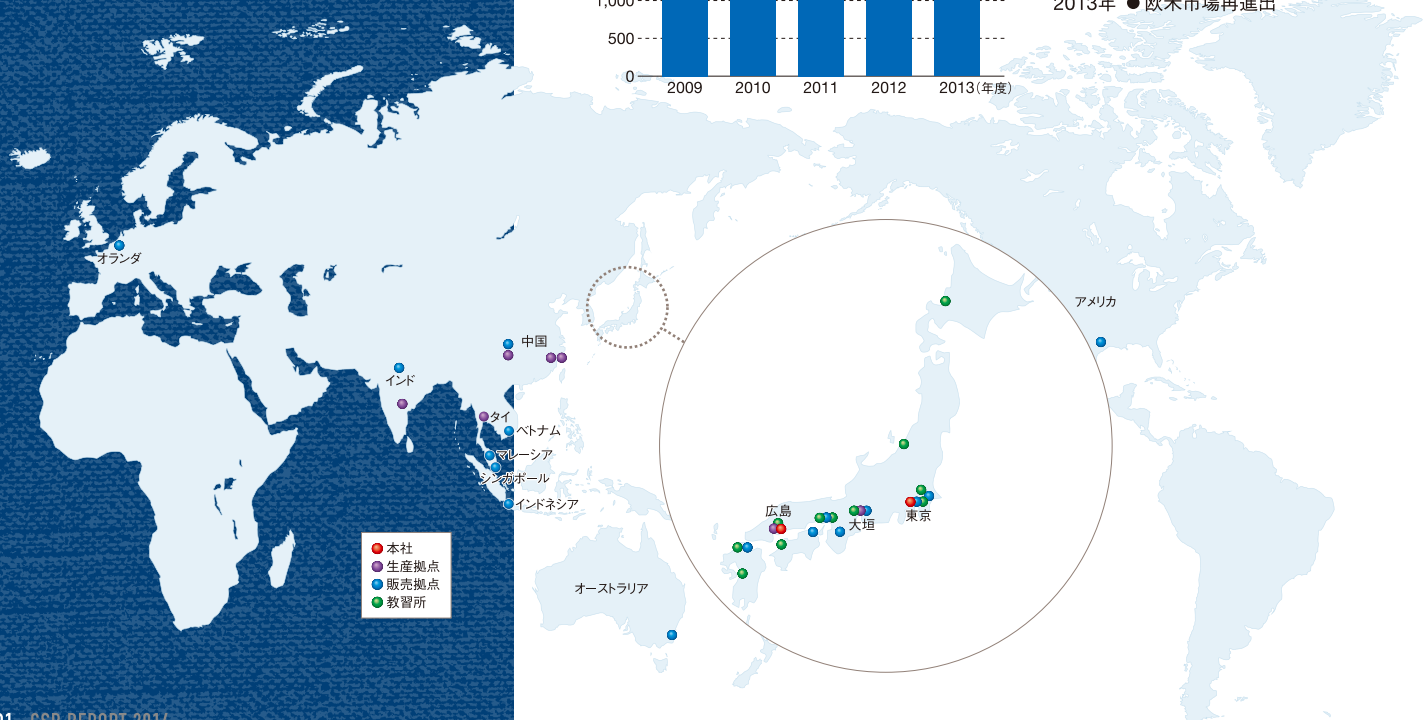
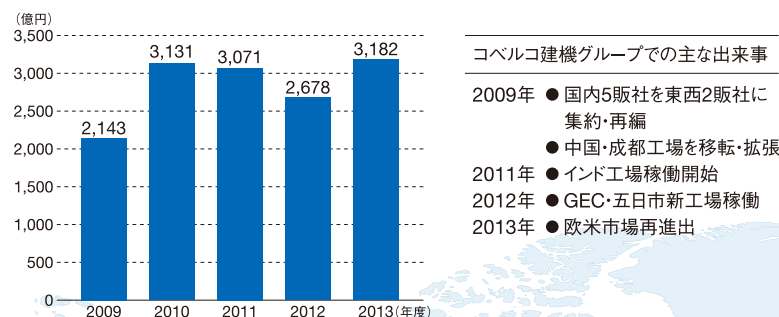
●国内の主な関係会社

東日本コベルコ建機(株)、西日本コベルコ建機(株)、コベルコ建機エンジニアリング(株)、
ユタニサービスサプライ(株)、コベルコ建機インターナショナルトレーディング(株)、コベルコ教習所(株)、
コベルコ豊田通商建機ホールディングアジア(株)、中村リース(株)、トーヨースギウエ(株)、(株)ササイ、
(株)ワイズヨシハラ、(株)常南

●海外の主な関係会社

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.(米国)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.(オランダ)
成都神鋼工程機械(集団)有限公司(中国)、成都神鋼建設機械有限公司(中国)
成都神鋼建機融資租賃有限公司(中国)、杭州神鋼建設機械有限公司(中国)
神鋼建機精密機械(杭州)有限公司(中国)
THAI KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY LTD.(タイ)
KOBELCO INTERNATIONAL (S) CO.,PTE.LTD.(シンガポール)
RICON PRIVATE LIMITED(シンガポール)
PT. DAYA KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA(インドネシア)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MALAYSIA SDN.BHD.(マレーシア)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY VIETNAM CO.,LTD.(ベトナム)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY. LTD.(オーストラリア)
KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD. (インド)

●売上高の推移(連結)



トップメッセージ

密接に関わる事業活動とCSR活動により 社会に必要とされる価値を創造し続ける



コベルコ建機株式会社
代表取締役社長 藤岡 純

大幅増収を達成。持続的な成長を目指す

2013年度の市場は、政治や経済基盤の脆さにより急速に市場が減退した東南アジア市場を除き、ほかのエリアの市場では若干の振れはあるものの、傾向的には概ね読み筋通りの動きを見せました。そんな中、日本市場は震災復興の本格化、国土強靱化に向けた老朽化インフラの点検・改修、排出ガス規制や消費税率アップに向けた駆け込み需要などの追い風を背景に国内関係会社も奮闘し、全社黒字達成という快挙を成し遂げました。連結決算数値も2013年度当初計画に対して大幅な増収増益となりました。ただ、企業のゴールは収益数値ではなく、事業の持続的な安定成長にあるとの考えから、2013年度からスタートした中期経営計画では以下に示す3点を基本方針に掲げています。

- いかなる事業環境変化にも追従出来る強靱な事業体への変貌を遂げる
- 欧米への事業再参入を遂行し、全世界でのコベルコブランド価値を最大化させる
- 一定シェアを獲得できているエリアは、収益重視の戦略を行い収益最大化を図る

引き続き、高い目標ですが、全員で種々の活動を加速・推進してまいります。

環境変化に対応し、ブランド価値を高める

「強靱な事業体への変貌」に関しては、生産・販売・開発各部門がうまく融合しながら種々のプロジェクトを推進し、一步一步ですが体質強化が進んでいます。しかし、環境変化に対する順応力や耐力という視点では、まだ十分とはいえません。市場に近い部隊は市場変化やお客さまのニーズを正確かつスピーディに察知し、最適なアクションをとることがより求められますし、コベルコ建機グループ全体の仕組みとしては、環境変化に対する諸施策始動までのリードタイムを短縮することが必要です。

2つめの「コベルコのブランド価値の最大化」に関しては、今年の3月に米国のラスベガスで開催された世界三大建機展のひと

つ「CONEXPO-CON/AGG2014」で、コベルコの世界中のディーラーが一堂に会する機会を持ちましたが、私はそこでコベルコブランドの強さを再認識いたしました。特に欧米市場には待ち望まれての市場再参入ですので、ディーラーやお客さまの期待に単に届けるだけではなく、製品の機能や品質、アフターサービス、そしてCSR活動においてその期待を上回る価値の提供が必要です。

最後の「収益最大化」に関しては、収益最大化が狙いではなく、一定シェアを獲得しているエリアのフィールドには多くのコベルコ機が稼働している訳ですから、新車のフロービジネスだけでなく、市場のストックをターゲットに事業の幅を広げることで収益ソースが多様化し、環境変化に強い事業体になるというところにポイントがあります。

特に、IT技術の進歩は目覚ましく、遠隔にいながらにして商品の使われる周辺環境や稼働状況を知ることが可能になっています。こういった技術を用い、コベルコ機を愛用いただいているお客さまに新たな価値が提供できればと考えています。

CSR活動を通じ、新しい価値を創造する

企業の存在価値は、社会への価値提供です。その価値が社会にとって有意と評価されたとき、その対価として企業のプレゼンスが高まると考えています。先にも述べましたが、事業の持続的な成長には「いかに社会へ価値を提供し続けるか」が基本であり、欠かせない要素だと考えています。最新技術を搭載し低燃費、低騒音性能に優れた機械を市場へ供給し、世界中のお客さまから好評をいただいています。これに加え、予防保全やランニングコスト低減に関するご提案、各種業界の最新情報提供なども積極的に行ってまいります。こうした事業活動を通じて生まれる、地域社会やステークホルダーの方々とのつながりがCSR活動のきっかけになり、新しい価値が創造される。そんな好循環の創出ができれば最高だと思っています。地域社会やステークホルダーとの共存共栄を目指すことで、これからも社会から必要とされる企業づくりを行ってまいります。2014年度もコベルコらしい新たな価値提供にご期待ください。

コベルコ建機グループの経営とCSR

コベルコ建機グループは、日々の企業活動を通じて、社会に価値を提供し、価値が社会に受け入れられることで生まれる好循環により、社会とともに成長していくことを目指しています。

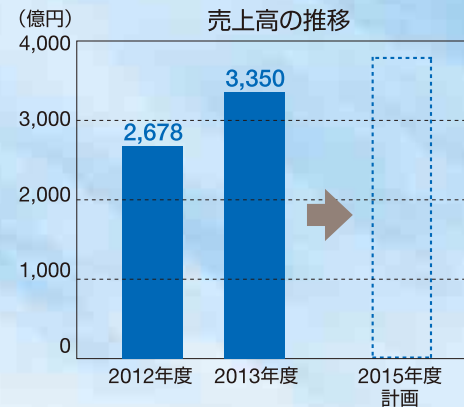
中期経営方針と戦略

▶ 中期経営方針

- いかなる事業環境変化にも追従出来る強靱な事業体への変貌を遂げる
- 欧米への事業再参入を遂行し、全世界でのコベルコブランド価値を最大化させる
- 一定シェアを獲得できているエリアは、収益重視の戦略を行い収益最大化を図る

▶ 中期経営計画基本戦略

- バランスの良い強靱な事業体への変貌と人材基盤の強化による収益最大化
- 欧米市場への事業再参入と全世界での強固なグローバルブランド確立
- ものづくりは、増産・生産拠点拡充などから、内製化・差別化など技術の深掘りへ転換
- 安定的に収益を確保できる事業基盤（フロー⇒ストック）の確立



CSR活動

コベルコ建機グループは、建設機械づくりの視点から、また企業としての立場から、人と地球にやさしい活動を続けています。CSR組織体制を整え、活動方針・活動ポリシーに従って、グループをあげてCSR活動に取り組んでいます。

▶ CSR活動方針

- コベルコ建機グループは私たちならではの地球環境保全を行います。
- コベルコ建機グループは、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めます。
- コベルコ建機グループは、社員と共により良い未来の実現に向けて進んでいきます。

▶ CSR活動ポリシー

- 人道主義的でコベルコ建機グループの存在感を増すものであること。
- 身の丈に応じた活動であること。
- 事業を展開している地域での活動であること。

▶ グループ環境管理基本方針

基本方針:

『グループ環境経営の実践による企業価値向上』

コベルコ建機グループは、グローバルな環境先進企業、持続して成長する企業、人間の幸福を実現する企業を目指し

- (1) 環境に配慮した開発・生産活動
- (2) 製品・サービスでの環境への貢献
- (3) 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすとともに、企業価値を高めます。

人と地球の未来を考える、コベルコ建機グループのCSRメッセージ

Message
1

コベルコ建機グループは、これまで環境問題に取り組んだなかで培ったノウハウを活かし、私たちならではの地球環境保全を行っています。

Message
2

コベルコ建機グループは、「人と地球の未来を考える」をコンセプトに、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めています。

Message
3

コベルコ建機グループの社員は、より良い未来の実現に向け、共に泣き、笑い、励まし合いながら進んでいくパートナーであり、大切な仲間です。

企業理念

▶ 経営理念

当社は、『ユーザー現場主義』に基づき、真に価値ある商品、サービス、情報を提供することで、顧客の満足に答えるとともに、豊かな社会の建設に貢献する。

▶ 経営ビジョン

私たちは、人と環境にやさしい循環型社会創出のため、世界中のお客様に対し、創造的な“知と技”により、革新的ソリューションを提供いたします。
このお客様価値の最大化活動を通じて、私たちは持続的成長を実現し、グローバルトップブランドを目指します。

▶ 行動指針

当社にとって、顧客の満足に応え社会に貢献することが経営理念とするならば、我々全ての行動はこの理念に沿うものでなければならない。

(1) シンプル

社会における使命と役割を充分認識し、是々非々を明らかにした公明でシンプルな行動をめざす。

(2) スピード

日々独創性と完成の研鑽に努め、顧客と時代の要請にスピードをもった的確な対応をめざす。

(3) オープン

互いの人格と個性を尊重するとともに公正を旨とし、オープンで活気あふれる自由闊達な社風の醸成をめざす。



これまでの活動実績と今後の展開

コベルコ建機グループは、社会のニーズに応え、役立つことを企業の使命と考えています。
社会が抱える多くの課題に対し、事業活動・CSR活動の双方を通じて、問題解決に取り組んでいます。



取り組みテーマ

これまでの活動実績

今後の展開



地球温暖化対策

⇒ 環境保全活動(P11)

低燃費を追求した 新型モデル油圧ショベルが続々登場

地球温暖化の主な要因は、CO₂をはじめとする温室効果ガスの増加であると考えられています。その原因はさまざまですが、日本国内における全産業のCO₂排出量(12.42億t)のうち約2%(2,700万t)が建設機械からの排出によるとも言われ、建設機械における省エネ・CO₂削減はメーカーの課題であると私たちは考えています。コベルコ建機グループでは、年々強化される排出ガス規制への対応はもちろんのこと、2013年度に販売開始した油圧ショベル8機種が従来機を大幅に上回る低燃費性能を実現し、省エネ・CO₂排出量削減に努めています。



ハイブリッドショベル(SK200H)稼働現場



展示会の様子

低燃費の追求とさらなる付加価値の創造

現在、多くのお客さまに実感いただいているコベルコの低燃費性能ですが、今後もその期待に応えるべく、低燃費性能に優れた機械を開発し、より多くの方に使用いただけるよう、製品の普及活動に努めていきます。もちろん、さらなる環境性能を追求した製品の開発を継続するとともに、作業性・安全性という建設機械の基本となる部分についての高機能化に向けても、研究・開発を継続していく考えです。



森林資源の保全

⇒ 環境保全活動(P11)

日本の林業の発展と、さらなる環境負荷低減へ コベルコの林業機械が全力でサポート

森林には、水の浄化や生物の保全、土砂災害の防止などの機能があります。しかしながら昨今は、就業者の高年齢化と人手不足により森林整備が行き届かず、森林が持つ本来の機能が危ぶまれています。そこで私たちは、林業機械の開発にも注力し、作業をより効率よく安全に行う林業専用ベースマシンを開発。ラインナップの幅も広げ多様化する林業現場のニーズに対応し、国産材における競争力アップにも寄与してきました。また、林業展への出展をはじめ、お客さまに最新の情報をお伝えする森林セミナーも開催しています。



森林・林業・環境機械展示実演会



コベルコ森林セミナー

林業の多様化・高度化に対応

現在、木材の利用方法は非常に多様化しており、製品としての材木や製紙のためのパルプ製品としての利用だけでなく、バイオマスなどエネルギー源としての活用にも注目が集まっています。今後需要が拡大するであろう日本の木材に対して、さらに林業の作業は高度化していくことが予想されています。コベルコ建機グループは、それらの個々のニーズに対して応えていくべく、今後も多用途に使用できる林業機械の開発を進めていきます。



グローバル交流

⇒ 社会・地域活動(P13)
⇒ ステークホルダーとの関わり(P15)

事業活動とともに CSR活動も、世界中へ輪を広げる

コベルコ建機グループのCSR活動は、各事業所周辺の清掃活動やステークホルダーとの交流など、地域に根差した地道な活動から始まりました。それらを着実に継続させていくことで、社員のCSR活動に対する意識も少しずつ変わり、近年では中国や東南アジアなど海外へも活動のエリアが広がっています。また、活動の種類も徐々に増え、2013年度はフィリピンや中国での災害復興支援や、地域と共同開催した環境保護イベント(中国)、ディーラーミーティングなどを行いました。



寄贈した油圧ショベル(フィリピン)



地域と共同で行った環境保護イベント(中国・杭州)

事業拡大とともに、よりグローバルな活動へ

コベルコ建機グループのCSR活動は事業を行う地域で活動することを基本としています。日本やアジアの地域で行ってきた活動は今後も継続し、新たに2013年に再進出した欧米エリアでもCSR活動を始め、世界中にコベルコ建機グループのCSR活動の輪を広げることを目指します。また、地域ごとに培った経験やノウハウをグループ内で共有し、少しでも多くの社員がCSR活動に参画することで、地域のニーズに合わせたきめ細やかな活動を行っていきます。



子どもの教育支援

⇒ 社会・地域活動(P13)

子どもたちの豊かな創造力や好奇心を育む 多彩な学びの場を提供

近年、子どもたちの理科離れを心配する声が高まっています。コベルコ建機グループは社会をより豊かにするために、こうした声を重く受け止め、学校や地域社会と協力して理科や科学技術、ものづくりの楽しさを学んでもらう活動を積極的に展開しています。一人でも多くの子どもたちが、豊かな創造力と好奇心を持ってくれることを期待し、2013年度もレスキューロボットコンテストや理科の出前授業を開催。また新たに、近隣小学校や幼稚園で子ども向けのイベントも行っています。



中学生レスキューロボットコンテスト



理科の出前授業

子どもたちとともに成長する

これまで世界各地で取り組んできた子どもの教育支援に、今後も継続して取り組んでいきます。また、一人でも多くの子どもたちに学ぶことの楽しさや喜びを実感してもらえるように、理科やものづくりの分野だけでなく、環境保全など、より幅広い観点で教育支援を展開したいと考えています。こうした支援を続けることは、社員が地域社会の未来を考える良い機会になるだけでなく、自社への理解度やモチベーションアップなど社員の育成にもつながっています。



建設機械の燃料消費量削減に真っ向から取り組む

コベルコ建機株式会社は、設立当時から環境への配慮を意識した商品開発を行ってきた。2006年、それまで培った技術を集結し発売開始した中型油圧ショベル8型シリーズは、従来機に比べ大幅な燃費低減を達成。お客さまから高い評価を受け、「低燃費のコベルコ」を強く印象づけた。

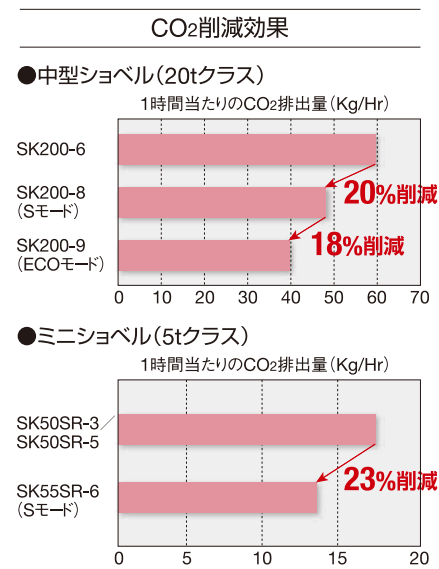
その後も、さらに高次元の環境性能を求め、低燃費ショベルの開発に力を入れた。2013年、中型油圧ショベル9型シリーズを発売。動力系統と油圧系統の両面から燃費軽減に取り組み、大胆な見直しによる改良と、小さな修正を積み重ねる丁寧な改良によって大幅な燃費改善を導いた。また、さまざまな現場でより無駄のない作業ができるよう、作業負荷の小さいときに徹底して低燃費を追及するECOモードを新設定。代表的な20tクラスの中型ショベルSK200-9での燃料消費量は、従来機と比べ約18%削減(※1)。当社が1年間に販売する20t～45t機をすべて9型シリーズに置き換えた場合、排出するCO2を年間約17,000t(※2)削減することになる。これは、自動車7,500台分に相当する。

一方、6t未満のミニショベルについても環境重視の開発を展開。12月に販売開始した新型ミニショベルSK55SR-6においても低燃費作業モード(Sモード)を新たに設置し、従来機と比べて約23%(※3)の削減を達成した。小回りが利くミニショベルだが、扱いにくさもあった。エンジンルームと運転席の位置が近いため、エンジンの騒音はオペレーターへの負担となっていたのだ。そ

こで、これまでは中型機のみだったコベルコ独自の低騒音技術「iNDR」をSK55SR-6にも搭載。オペレーターへの騒音負担の軽減だけでなく、周囲への機械騒音影響を少なくすることができた。

2013年にコベルコ建機グループが販売した新製品は、すべてのモデルで従来の機械よりも低燃費作業が可能となっている。CO2削減をはじめ、環境保全に大きく寄与する商品ラインナップが揃っている。

(※1) 従来機SK200-8のSモードとの比較
(※2) 年間1000時間稼働とし、当社独自の燃費計測基準をもとに算出
(※3) 従来機SK50SR-5のハイアイドル時との比較



コベルコは低燃費に限界をつくらない 進化は、世界に羽ばたく

コベルコ建機グループは、低燃費油圧ショベルの開発に常に挑戦し続けています。

低燃費・低騒音を追い求め、人が暮らす環境だけでなく、働く環境にもやさしい油圧ショベルを追求。

進化したコベルコのショベルが今、世界中で活躍しようとしています。

日本の森林整備に貢献する「カーボン・オフセット」プログラム

2013年11月、コベルコ建機グループは地球温暖化防止や森林整備へのさらなる貢献のため、カーボン・オフセット制度を活用したプログラムを開始した。

カーボン・オフセットとは、どうしても削減できないCO2などの温室効果ガスの排出をほかの場所で削減された温室効果ガスで埋め合わせ(オフセット)すること。コベルコ建機グループでは環境省が発行する温室効果ガスのオフセットクレジットを林業用機械に付加し、機械稼働によって排出されるCO2の一部をカーボン・オフセットする。1台当たりのCO2相殺量は平均5tで、自動車

に換算すると2.17台分にも上る。この資金は日本国内の森林整備事業に役立てられている。

今後、コベルコの林業機械の稼働が増えれば、さらに多くのCO2をオフセットすることが可能となる。

最新技術でさらなる環境負荷低減に貢献したいという想いを込め、運転中に表示されるエコマーク(リーフ)を中心に置き、大地(アースカラー)と森林(グリーン)の循環をイメージしました。



コベルコが誇る低燃費ショベルを全世界へ

コベルコ建機グループは、CNH Global N.V.社(本社オランダ)との全世界包括提携により、世界をエリア分割して、互いに分担して販売を行ってきた。カバーするエリアを分けることで各地域に集中し、それぞれのノウハウを生かした活動を展開してきたが、10年を経て、2012年末に提携を解消。コベルコ建機グループは、アジア・豪州などのAPACエリアに限定されていた販売権が解け、2013年より北米・欧州・南米・

中近東・アフリカ・CISエリアで、独自の販売・サービス活動を展開することとなった。

再参入となった北米と欧州地域では、コベルコブランドに対する期待感も大きく、新拠点を設立したうえで、旧コベルコディーラーを核とした販売網を整備。コベルコ建機グループの自信作・超低燃費ショベルを市場に一気に投入した。満を持しての新規エリア参入においては、欧米の新拠点を活用し、販売網の新たな構築を進めてい



る。現在、34カ国、83社の販売店が加わって、コベルコの建設機械を取り扱うこととなり、低燃費性能に優れた油圧ショベルは全世界へと活躍の場を広げている。



CONEXPO-CON/AGG2014の様子

米国市場でも高まる期待の声

森田 克彦
KOBELCO CONSTRUCTION
MACHINERY U.S.A. INC.
CEO



2013年1月に米国市場へ再参入し、北・中南米の販売拠点として着々と代理店網を築きあげてきました。2014年3月には、ラスベガスで開催された建機展示会(CONEXPO-CON/AGG2014)に出展。製品に対する高い評価とコベルコ建機グループへの期待の声を数多くいただきました。今後も、コベルコブランドを市場に浸透させ、低燃費ショベルが活躍できるよう、地域に根ざした事業を展開していきます。

2013 企業活動・CSR活動ハイライト

コベルコ建機グループでは、CSR活動ポリシーに基づき、事業活動とCSR活動を相互に深く関連づけて取り組みを進めています。2013年度も事業展開に沿ったさまざまな活動を展開しました。



Highlight
1



「出島オランダ賞 2013」受賞

欧州の拠点となるKCMEの
意欲的な企業活動を高評価

欧州市場再参入の主要拠点として、2013年6月にオランダに設立したKobelco Construction Machinery Europe B.V. (KCME)は、同年12月にオランダ経済省 企業誘致局 (NFIA : Netherlands Foreign Investment Agency) および、蘭日貿易連盟 (Dujat : Dutch & Japanese Trade Federation) が主催する「出島オランダ賞 2013」を受賞しました。

この賞は、蘭日貿易が長崎出島から始まったことに由来し、2000年に在日オランダ商工会議所によって設立された「出島賞」が前身となっています。2007年から、オランダ経済省と蘭日貿易連盟が参加し規模が拡大され、オランダに進出した日本企業を対象とする「出島オランダ賞」と、日本に進出したオランダ企業を対象とする「出島日本賞」の授与が毎年交互に行われています。

KCMEは、事業拡大、雇用拡大等の意欲的な投資を進めていることが評価され、新会社を対象にした「new investment」部門で表彰を受けました。アムステルダムで行われた表彰式に



「出島オランダ賞」授与式の様子

地域社会に対し、高い環境性能を発揮する油圧ショベルの販売や雇用の創出など、幅広く貢献する企業を目指し、グローバルな事業活動を着実に進めています。



KCMEの外観

Highlight
2



日経ものづくり主催 「強い工場アワード」優秀賞受賞

最新設備の導入と創意工夫で
日本の工場ベスト5に認定

2013年11月東京ビッグサイトにおいて、日経ものづくり主催「強い工場アワード」表彰式が開催されました。第1回となる今回は、新興国などではつくることができない、日本ならではの製品・部品を製造している工場が対象となり、コベルコ建機株式会社五日市工場が日本の工場ベスト5に選ばれ、優秀賞を受賞しました。

2012年5月に広島市安佐南区祇園地区から同市佐伯区五日市港へ移転した五日市工場は、単に最新設備を導入するだけではなく、「スマート&クリーン」をプロジェクトの合言葉とし、創意工夫を図り、徹底した粉じん対策と安全で快適な作業環境を目指した取り組みを続けてきました。例えば部品の荷受場。建設機械などの大型製品を生産する工場では、荷受場のシャッターをこまめに開閉しません。ライン稼働中はほぼ開けっ放しで部品を搬入するのが一般的な姿です。しかし五日市工場では、フォークリフトが部品を搬送する都度シャッターを開閉する仕組みを取り入れ、さらに組立ラインにはクリーンメーターを設置し、高い清浄度を維持・管理しています。



「強い工場アワード」表彰式

こうした徹底した取り組みの結果、粉じんに関する不具合が大幅に減少し製品の品質がさらに向上しました。

このほか、製缶・塗装・組立のラインを直結するなど生産



組立ラインに設置したクリーンメーター

Highlight
3



トーヨスギウエ株式会社 香川支社のCSR活動

会社をあげて社員が一致団結
近隣住民との信頼を築く

四国エリアで油圧ショベルの販売・レンタル事業を行うトーヨスギウエ株式会社は、地域に密着したCSR活動を積極的に行っています。当初は、香川支社の前を通学する児童への交通指導を行っていました。そこから活動の幅が広がり、最近では近隣幼稚園児を対象にしたショベルの搭乗体験や写生大会を開催。暮らしの中で目にする「働く機械」の代表格である油圧ショベルは子どもたちに大人気で、たくさんの笑顔があふれるイベントになりました。そのほか、事業所周辺のゴミ拾いや水路の掃除、草刈り、花植えなどを自主的に行い、地域の方々からも大変喜ばれています。このような地道な活動が地域住民との交流を深めるきっかけとなり、今まで以上の信頼関係を築いています。現在は香



「2013年度CSR賞」授与式の様子

川支社だけでなく、全社をあげてのCSR活動へと発展しています。今後も多くの社員が参画し、四国エリアの地域社会にますます貢献することが期待されています。

地元の方々に喜んでほしい モチベーションは、ただそれだけ

廣瀬 基博
トーヨスギウエ(株) 香川支社



私たちはこれまで、地域に根づいた事業を展開してきました。CSR活動も形にこだわらず、シンプルに“地元の方々に喜ばれることがしたい”という思いから、子どもたちへの交通指導を始めたのがきっかけです。その後活動の輪が広がり、今では各拠点間で競い合うようにアイデアを出し、工夫を凝らし、その土地ならではの活動を実施しています。今後も地域住民との信頼関係を築きながら、活動を継続していきます。

Highlight
4



東日本コベルコ建機株式会社 西の里小学校 ものづくり体験授業

地域企業と協力し多彩な展示を実施
ものづくりの楽しさを伝える

東日本コベルコ建機株式会社は、2013年6月に北海道北広島市にある西の里小学校で、小学2年生約70名を対象とした訪問学習を行いました。このイベントは、働くクルマや機械を間近で見たり触れたりしてもらうことで、楽しみながら機械に興味を持ってもらうことを目的に、2011年から地元企業と共同で開催しています。今回で3回目の参加となりましたが、企画の段階から社員が参画し地元企業と協力することで、油圧ショベルだけでなくトレーラーや冷凍車など、少しでも多くの働くクルマや機械を展示できるよう創意工夫を図ってきました。また、単純に楽しんでもらうだけでなく、ペーパークラフトを用いたものづくり体験コーナーや、実車を使った交通安全教育・防災教育などの場を設け、さまざまな



「2013年度CSR賞」授与式の様子

体験を通じて子どもたちに学びの場を提供することができました。同小学校からも好評いただき、2014年度の開催も検討しています。

「もっと多くの方に参加してほしい」 自信を持って言える楽しいイベント

新藤 陽子
東日本コベルコ建機(株) 北海道支社 札幌営業所



働くクルマを題材としたイベントを実施しています。学校からの要望を聞き、小さな子どもたちの行動や特性をイメージしつつ、時間配分や出展機の選定、配置人員を決めています。準備は大変ですが、同僚や上司の協力を得ながら進めています。楽しそうにグラウンドを駆け回る子どもたちの笑顔を見ると苦労は吹き飛び、逆に私たちが元気をもらっている気がします。もっと多くの方に参加していただきたいイベントです。

未来の地球を考える

製品の開発・製造を核にライフサイクル全体を考慮して、環境負荷の低減に取り組んでいます。また、事業活動を通じた環境保護・整備にも積極的に関わっています。

▶ コベルコの「カーボン・オフセット」プログラム

コベルコ建機グループは、林業機械が排出するCO₂にも着目し、地球温暖化防止や森林整備へのさらなる貢献のため、「カーボン・オフセット」を利用した独自のプログラムを用意しました。カーボン・オフセットとは、コベルコ建機グループの林業機械に森林吸収クレジットを付加することによって、お客さまの機械が稼働し発生する温室効果ガス(CO₂など)の一部を、ほかの場所で削減された温室効果ガスで埋め合わせ(オフセット)する仕組みをいいます。

コベルコ「カーボン・オフセット」プログラムは、クレジットの発行者や発行プロジェクトを選択することができるので、お客さまの地元をはじめご希望地域の森林整備に貢献できるのが特徴で、年間60件(300t分)の導入を見込んでいます。



▶ 塗着効率のさらなる向上

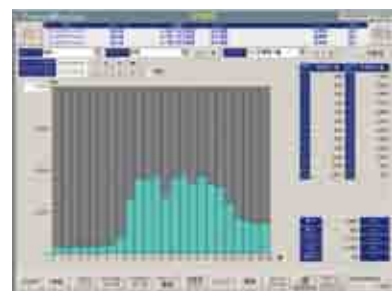
油圧ショベルの塗料には、揮発性有機化合物(VOC)が含まれ、塗装時の揮発・飛散は大気汚染の原因になります。また、職場の作業環境改善・廃棄塗料削減の観点からも、塗着効率を高め、塗料の使用量を減らす取り組みを続けてきました。静電ガンの導入や塗装条件の最適化、塗装工程の見直しなどを継続的に進めた結果、多くの塗装ラインにおいて塗着効率が80%※まで向上。面積当たりの塗料使用量は半減※しました。

※当社基準による計算値



▶ 広島事業所における省エネ分科会

広島事業所では、電力使用量の抑制などを目的に省エネ分科会を立ち上げています。五日市工場や沼田工場、グローバルエンジニアリングセンター(GEC)の電力使用量を調査・管理し、必要に応じて対策を講じています。例えば、工場で使用されるコンプレッサーの電力は一般的に工場全体の約20%といわれており、継続的にエアー漏れを調査し、改善に取り組んでいます。



電力使用量の確認画面

互いに協力し 地道な改善を繰り返す

岸本 和実
コベルコ建機(株) SCM部 汎用部品グループ

原発問題や温室効果ガス問題が論じられている昨今、省エネは一企業だけの問題ではなく、日本国民全体の課題となっています。これまで広島事業所では省エネ設備の導入や物流改善などを行ってきましたが、1つの改善でさらなる大きな効果を得るのは難しく、今後は社員一人ひとりの協力を得て、地道な改善を繰り返し行うことが重要となります。これからも皆で力を合わせ、子どもたちが安心して暮らせる環境をつくっていきけるよう取り組んでいきます。



VOICE

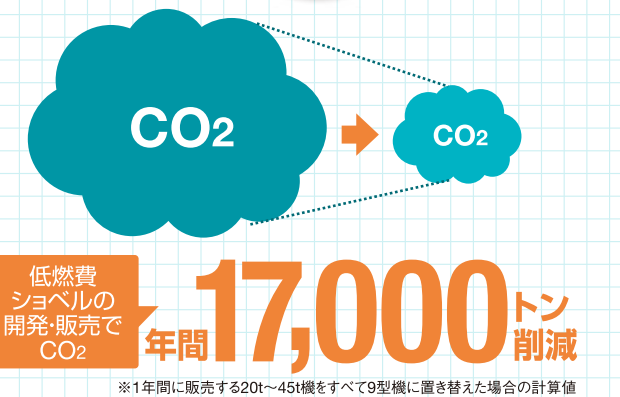
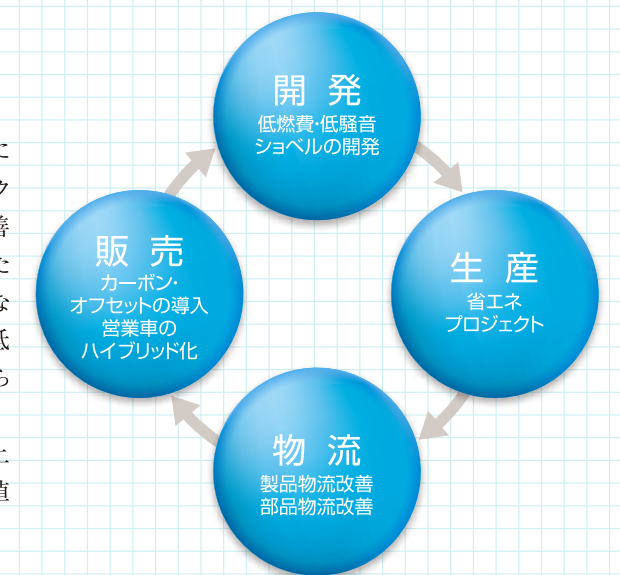
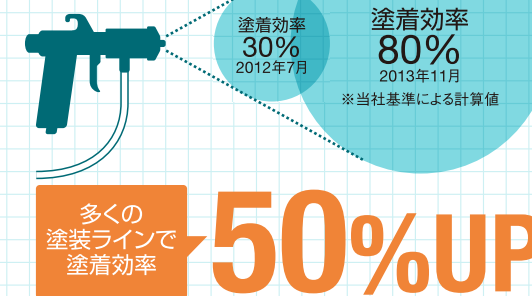
DATA

環境数値

コベルコ建機グループは、開発・生産・物流・販売の事業サイクルに合わせ、さまざまな環境保全活動を展開しています。例えば、フォークリフトから電動の無人搬送台車への切り替えをはじめ多数の改善に取り組んでいる工場内物流、近隣の港からの輸出を可能にした製品物流、モーターシフト化を促進しているアフターパーツの物流など、物流ひとつについてもあらゆる角度から見直し、環境負荷の低減に努めてきました。また、低燃費ショベルの開発は10年以上前から着目し、各シリーズにおいて着実に成果をあげてきました。

ここでは、事業サイクルの中での環境保全活動から3つを取り上げ紹介するとともに、2013年度の国内生産拠点における環境数値を記載しています。

▶ 削減効果



▶ 事業活動に伴う排出量

コベルコ建機(株)広島事業所

主要製品:建設機械、運搬機械、自動車、自動車関連機械器具・部品

■大気

項目	設備	規制値	実測値
NOx	乾燥炉	230	10
ばいじん	乾燥炉	0.2	0.004
ダイオキシン類	該当なし	該当なし	—

■水質

項目	規制値	実測値(平均値)
COD	該当なし	—
SS	該当なし	—
油分	35	15.3
ダイオキシン類	該当なし	—

■化学物質

物質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大気	公共水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	110,000	0	0	0	0	32,000	塗装
トルエン	7,100	0	0	0	0	9,900	塗装
エチルベンゼン	48,000	0	0	0	0	3,800	塗装

■大気データ
※規制値:大気汚染防止法、国条例、ダイオキシン類対策特別措置法
※単位:NOxはppm、ばいじんはmg/Nm³、ダイオキシン類はng-TEQ/Nm³
※規制値は、対象施設ごとに決められています。
※表に記載されていない項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。
※化学物質:カドミウム、鉛、六価クロム、ヒ素、水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チラウム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン
■水質データ
※規制値:水質汚濁防止法、国条例、ダイオキシン類対策特別措置法もしくは下水道条例、協定値

取扱物質総数 4

コベルコ建機(株)大垣事業所

主要製品:建設機械及び部品

■大気

項目	設備	規制値	実測値
NOx	該当なし	該当なし	—
ばいじん	該当なし	該当なし	—
ダイオキシン類	該当なし	該当なし	—

■水質

項目	規制値	実測値(平均値)
COD	2.79	0.97
SS	40	2.00
油分	5	1.00
ダイオキシン類	該当なし	—

■化学物質

物質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大気	公共水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	30,100	0	0	0	0	8,447	塗装
トルエン	14,697	0	0	0	0	4,208	塗装
エチルベンゼン	24,626	0	0	0	0	6,940	塗装

※単位:CODはkg/日、SS・油分はmg/日、ダイオキシン類はpg-TEQ/日
※ND:分析定量限界値以下(検出されない)
※表に記載されていない項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。
pH、BOD、全窒素、全リン、フェノール類、総クロム、溶解性鉄、溶解性マンガン、フッ素、銅、亜鉛、カドミウム、総シアン、有機リン、鉛、六価クロム、ヒ素、水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チラウム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン
■化学物質
※単位:kg

取扱物質総数 4

地域との共栄に向かって

事業活動を行っている地域において、住民の一員として積極的な活動や支援を続けています。地域と互いに支えあいながら、期待に応えていき、地域に根ざした企業であり続けます。

活動理念

コベルコ建機グループは、広く社会と共存するグローバルな企業を目指し、事業を展開しているさまざまな地域で、社会・地域活動を実施しています。それぞれの活動では従業員が直接参加することを基本とし、地域を知り、近隣住民を知り、自分を知ることで、コベルコ建機グループが地域・社会からどのように映っているか、どのような共存の仕方があるのかを肌で直接感じながら、より良い豊かな社会づくりへの貢献に役立てています。

2013年度も、地域に親しまれながら、ともに成長することを大切に考えて、子どもたちへの教育支援や災害復興支援のほか、地域の清掃美化活動、エコキャップ回収活動や森林資源の保護活動など環境保全につながる活動も継続して実施しました。

継続的活動

地域社会との共存共栄に向けて、主に従業員からの提案を基に活動を実施しています。活動を推進し、維持するために「コベルコ建機CSR基金」を設立。継続的な支援体制をつくっています。

詳しい活動内容は、WEBをご覧ください。

コベルコ建機 CSR 検索

<http://www.kobelco-kenki.co.jp/csr/index.html>



1 フィリピン台風被害復興支援

コベルコ建機(株)、Kobelco International (S) Co., Pte. Ltd.

2013年11月フィリピン中部を襲った台風30号は、強風と高波により各地に甚大な被害を引き起こしました。コベルコ建機株式会社とKobelco International (S) Co., Pte. Ltd.は、復興支援に必要となる油圧ショベルを共同で寄贈することを決定。「SK210LC」1台をギワン地方政府に寄贈しました。また、フィリピン販売代理店であるJVF Commercial and Project Development Support Services社は被災地へオペレーターを派遣し、メーカー・代理店が協力し復興支援を行ってきました。1日でも早い復興を願い支援活動を続けます。



2 佐伯区民祭り

コベルコ建機(株)広島事業所

広島事業所では、地域イベントを通じて地域の方々との交流を深める活動を2009年から毎年続けています。2012年の工場移転以降は、11月に開催される広島市佐伯区の区民祭りに参加。ブースを設け、ラジコンのクレーンを使ったお菓子釣りや、ショベルのぬり絵などを行っています。毎年参加することにより、地域の方々から声をかけていただく機会も増えました。うれしうにブースを訪ねてくれるコベルコファンの子どもたちも多く、子どもやその家族の皆さんと楽しい時間を共有できることが何よりうれしい瞬間です。



3 中国・四川省雅安地震復興支援

成都神鋼工程機械(集団)有限公司など4法人

2013年4月に四川省雅安市芦山県を襲った大地震は、広い範囲で甚大な被害をもたらしました。コベルコ建機グループの中国法人4社はコベルコクレーングループ、四川成工グループと協力し、油圧ショベル2台とホイールローダー3台(総額300万円=約5,100万円)を雅安経済情報委員会へ寄贈しました。併せて各社の社員から寄せられた支援金も手渡しています。また震災直後は、現地代理店の四川格瑞特特業工程機械有限公司が建設機械の搬入や道路の復旧作業を行い、負傷者の搬送、物資搬入などで大きな役割を果たしました。



CSR活動を通じて感謝の気持ちを再認識

吉田 健太郎
コベルコ建機(株) 財務部 資金グループ

東京本社周辺の花壇の手入れ活動は、地域の方々や学生たちと一体となり、周辺の環境改善の一端として取り組んでいます。しながわ夢さん橋の活動も、同様の考え方で進めています。地域の方々や社員の家族とふれあい、コミュニケーションをとることが基本です。このような取り組みを通じて、普段私たちが支えてくださる方々と接し、ともに活動することで、感謝の気持ちを再認識させてもらえる良い機会となっています。



ステークホルダーとの関わり

人とともに歩む

人材育成・支援やコミュニケーションの場づくりなどの活動を通じ、コベルコ建機グループのみならず、業界全体の繁栄を図るとともに、各人の豊かな暮らしへつながることを目指しています。

お客さま・関係企業との調和

コミュニケーションを通じ 良好なつながりと信頼を構築

お客さまや関係企業と情報を共有し、相互理解を深めるため、多彩なコミュニケーションの場を設けています。信頼を高め、さらなる連携強化を図り、ともに発展することを目指しています。



▶ ディーラーミーティング

コベルコ建機グループの製品を取り扱う各国ディーラーと親睦を深め、さらなる連携強化を図ることを目的に、国内外で定期的にディーラーミーティングを開催しています。2014年3月には、米国ラスベガスで開催された建機展示会（CONEXPO-CON/AGG2014）に合わせて同地で開催。北米をはじめとする世界各国のディーラー計100社を招き、市場動向などの最新情報を提供するとともに、各社から意見をいただき、グローバルビジネスの発展に向け団結を強める貴重な機会となりました。同年4月には、欧州でもディーラーミーティングを開催しています（写真右上）。これからも、真のグローバルブランドとしてお客さまやディーラーの期待を上回る価値の創造に努めていきます。



セミナーを通じて お客さまに最新の情報を提供

松 貴大
コベルコ建機(株) 環境マーケティンググループ



定期的に開催している資源リサイクル会や森林セミナーは、楽しみにされているお客さまも多く、「新製品情報だけでなく、経済状況や業界に関する情報、講演会など多彩でとても参考になった」「同業・異業種の交流の場になる貴重な機会」といった声が寄せられており、開催する私たちの励みにもなっています。「お客さまとともに」をモットーに、製品だけでなくお客さまにとって有益なさまざまな情報を提供することで、循環型社会の形成の一助になればと願っています。



▶ 生産連絡会

油圧ショベル生産部品の取引先各社をはじめとする協力企業との、情報共有と相互理解を目的に年2回(4月/10月)、生産連絡会を実施しています。2013年10月は大垣で開催し、125社263名の方々に集まいただきました。コベルコ建機グループからは事業環境や需要動向、調達方針などの説明と、大垣清流プロジェクト(物流改善、塗装改善など)を紹介。続く懇親会では、コベルコ建機グループの経営陣も出席し、参加者の方々から直接貴重な意見を聞くことができました。今後も協力企業各社との信頼を高め、互いの企業価値向上と発展を目指していきます。



▶ 資源リサイクル会・森林セミナー

日本国内で資源リサイクル事業や林業分野に従事している方々に向けて、さまざまな最新情報を提供するセミナーを定期的に開催しています。2013年度の資源リサイクル会では、「産業廃棄物の現状」というテーマでのセミナーや、資源リサイクル分野で活躍するコベルコの製品を紹介。森林セミナーでは、「データから見る日本の森林・林業」をテーマに、講演会やコベルコの林業機械を紹介し、参加された方の事業のヒントとなる情報を発信しています。また、参加者同士が意見交換をする場にもなっていて、毎年好評いただいています。



職場づくり・人づくり

安心・快適な労働を目指し 職場環境を整備する

従業員が心身ともに健康で安心して働ける職場環境づくりを進めています。活動の内容は、生産工場における安全衛生活動や育児・介護に関する支援や人材育成など、職種や地域の特性に合わせて多彩に展開しています。すぐに大きな効果が得られる活動ばかりではありませんが、少しずつ着実に推進することが最も重要なことだと考え、継続して行っています。

▶ 社内研修制度の充実

コベルコ建機グループでは、社員段階に合わせた「ありがたい姿」を設定し、その実現に向けてOJTとOff-JTを組み合わせた総合的な人材育成体系の構築に取り組んでいます。若手のうちは問題解決などの基本的なビジネススキルを身につけ、中堅になるとコーチングなど、よりチームワークを重視した業務を遂行できる人材を目指します。また海外事業の拡大に伴い、語学や異文化対応力のあるグローバル人材や、事業を統括するビジネスリーダーの育成などにも積極的に取り組んでいます。



▶ コベルコ建機商学院(将来の経営者を育成)

次世代を担う国際レベルの経営者の育成を目的に、コベルコ建機グループと北京大学光華管理学院が共同で設立した「コベルコ建機商学院」。その第1期生5名の卒業式が2013年10月に開催されました。商学院では、国際的な経済状況や中国市場における今後の見通し、問題解決能力強化など多岐に渡る実践的な研修を行っています。こうしたグローバルな人材育成は、ものづくりやサービスの分野でも積極的に展開し、社員のスキルアップだけでなく、モチベーションの向上にもつながっています。



TOPICS

日経 ニューオフィス 賞受賞

機能性と創造性が
評価されたGEC棟

2012年5月に移転した広島本社には、ものづくりの司令塔の役割を担う「グローバルエンジニアリングセンター(GEC)」があります。このGEC棟は、「風が抜けるオフィス」をコンセプトに、見通しの良いオフィス空間、ユニバーサル化、共有スペースの充実と有効利用、意図的な偶発的コミュニティの創出など、今までにない空間づくりを目指して建設しました。結果、第26回日経ニューオフィス賞「中国ニューオフィス奨励賞」を受賞し、内外から高い評価をいただいています。



▶ 仕事と生活の両立支援施策(育児・介護)

「ワーク・ライフ・バランス」の一環となる、子育て世代への支援を段階的に進めています。これまでに、イントラネットの育児と仕事の両立支援ホームページ「Libra」の充実や、福利厚生プラン(カフェテリアプラン)のメニュー追加・補助率引き上げを行ってきました。カフェテリアプランでは、子どもの教育費補助や不妊治療費補助などで成果を上げています。



▶ サービス技能大会

コベルコ建機グループでは、アフターサービスの技能や知識を競い合う「サービス技能大会」を毎年開催しています。今回は「示せ世界へ我らの力!これぞコベルコサービスマン!」と題された大会スローガンのもと、グループ9社から選抜された総勢38名の選手が競い合いました。技能向上や技術伝承の促進は、お客さまの安心・信頼へとつながっています。



▶ 五日市工場感謝祭

五日市工場では、従業員が安全で気持ちよく働ける職場づくりを目指すとともに、職場を家族にも知っていただくために「五日市工場感謝祭」を開催しています。2回目となる今年も、工場内をめぐるスタンプラリーや音楽ライブ、部署対抗駅伝などのさまざまなイベントを開催。あいにくの雨模様にもかかわらず総勢約1,600名が参加し大盛況となりました。



コンプライアンス／コーポレートガバナンス

企業の社会的な役割と責任を果たすとともに、企業価値を最大限に高めるため、グループ全体でのガバナンス体制を整え、倫理・法令遵守の徹底を図っています。

▶ コンプライアンスへの取り組み

コベルコ建機グループは、企業倫理と企業の社会的責任が強く必要とされていることを認識し、企業経営上の法令遵守はもちろんのこと、コンプライアンス活動を継続して推進しています。活動の柱として、基本方針とコンプライアンス5原則を掲げ、社会的責任を果たすよう努めています。

▶ コンプライアンス基本方針

- ①私達はあらゆる企業活動において関係法令及びこの行動規範を含む社内諸規程を遵守し、企業倫理と社会常識から逸脱しないよう行動します。
- ②私達はあらゆる企業活動において人権を尊重し、人種、性別、職業、年齢、国籍、社会的地位、宗教、身体的障害、言語、出身地等に対する差別を行いません。
- ③私達はあらゆる企業活動において当社と利害関係にある全ての人達との間で公正な取引を行います。
- ④私達は常に高い倫理観に基づき行動し、反社会的な行為や会社の名誉や信用を損なう行為を一切行いません。
- ⑤私達は常に安全性高く、地球環境の保全に十分配慮した商品を提供し、併せて顧客に喜ばれるサービスや必要な情報をタイムリーに提供します。

▶ コンプライアンス委員会

コベルコ建機グループでは、企業活動における倫理・法令遵守活動を高めるため、取締役会から独立した機関として、コベルコ建機グループのコンプライアンス委員会を設置しています。より公正で透明性の高い組織にするため、2名の社外委員を含めています。

▶ コーポレートガバナンス体制

コベルコ建機グループは、コーポレートガバナンス体制を構築し、事業を展開する国や地域での法令遵守はもとより、社会常識を逸脱することがないよう、コンプライアンスの徹底を図っています。また、企業としての浄化作用を促進し、健全な企業風土を維持するた

▶ 環境管理委員会

コベルコ建機では、各分科会より構成される環境管理委員会を設置し、五田市・大垣工場をはじめとする主要生産拠点での、ISO14001環境工場標準・マニュアルに沿った環境管理活動および改善活動を推進しています。毎月1回委員会を開催し、各分科会の進捗・問題点および対策について議論し、さらなる環境改善を促進しています。

TOPICS

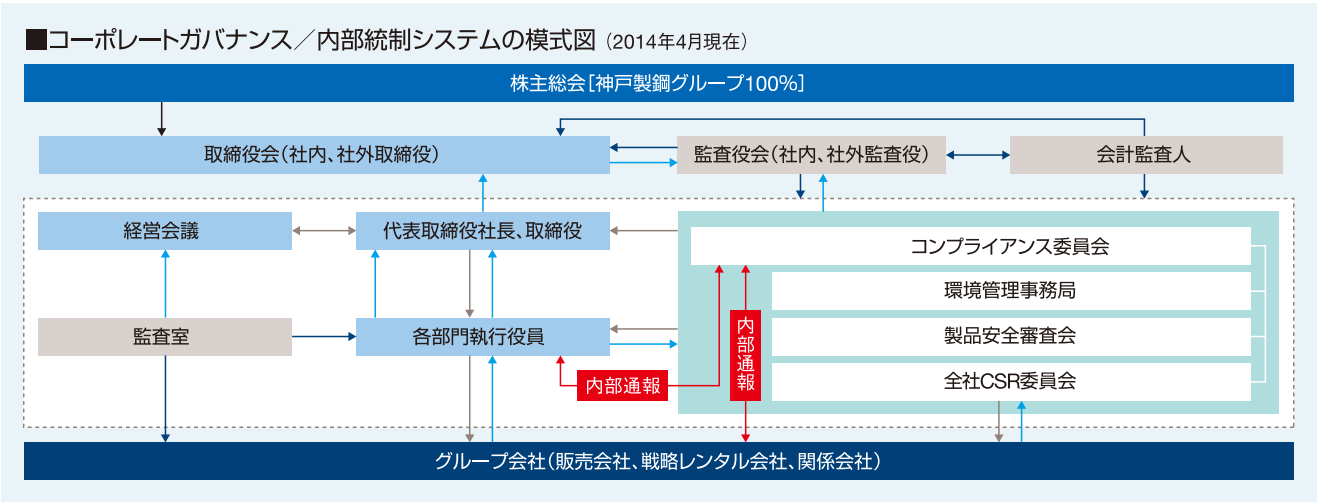
危機管理演習

継続した活動で 危機管理能力の向上を図る

2006年から毎年、危機管理演習を実施しています。今回で13回目となるこの演習はコベルコクレーン株式会社と共同で行うなど、徐々に演習の内容や対象範囲を広げて取り組んでいます。本演習を繰り返し実施することで緊急時の基本動作を体得し、万一の場合に備えるとともに、危機に対する意識を高めています。この演習は今後も継続し、従業員ならびに企業そのものとしての危機管理能力のさらなる向上を図ります。



めの仕組みとして、「内部通報システム」を設け、法令・企業倫理・行動基準に違反することによるリスクの顕在化や、早期に問題を把握し対策を講じることに努めています。



社員メッセージ

CSR活動には多くの社員が関わっています。その中心にいるのがCSR委員です。活動をリードし、また、陰からサポートし、コベルコ建機グループのCSR活動を支えています。



東日本コベルコ建機(株) CSR委員
黒田 俊恵

子どもたちの笑顔が原動力

私は現在、働くクルマや機械を使って子どもたちが楽しく学べるイベントを企画・推進しています。これは、地元の企業と協力し要請のあった保育園や小学校へ働くクルマや機械を持ち込み、交通安全教育や防災教育、ペーパークラフトを用いたものづくり体験などを行うイベントです。子どもたちに楽しく学んでもらうことが目的ですが、子どもたちのあふれんばかりの笑顔を見ると、私たちも笑顔になり、自然に「準備は大変だけど、またやりたい」と思います。実は、もうひとつやってみたい活動が。それは「コベルコのご当地活動!」。みなさん、いかがですか?

人の喜ぶ姿が継続の力に

私は、大掛かりではなく地元で困っている人々を支援するような活動がしたいと思っています。だれかに喜んでもらえることが達成感につながり、活動継続のきっかけになると考えているからです。以前、町内会の会合に参加する年配の方々を送迎する活動を行った際、大変喜んでいただきました。その達成感や充実した気持ちが今日につながっていると思います。大垣CSR委員会では、特別支援施設との交流会や河川の清掃活動などを行っていますが、さらにCSR活動の輪を広げるためにも、もっと小さいグループでそれぞれが考え、活動できるようにしたいと考えています。



大垣CSR委員長
平林 清和



広島CSR委員長
大木 健

多彩な活動で地域に溶け込む

国内外生産拠点の新機種量産準備と広島CSR委員長、この二足のわらじを履いてから約1年が経ちました。この間、中学生レスキューロボットコンテストや理科の出前授業、地元佐伯区の区民祭りへの参加や工場周辺の清掃活動などさまざまな活動を行いました。少しずつではありますが、こうした活動を通じて、地域の方々に「コベルコ」を知っていただき、興味を持ってもらえたと思っています。でも、まだまだです。社内でもっとCSR活動の輪を広げ、盛り上げ、地域に根づいた活動を推進することで、もっとたくさんの方々には私たちのことを知っていただきたいと考えています。

楽しみながら長く続く活動を

これまでに、清掃活動やエコキャップ活動、「どこでんいく隊」の活動支援を行ってきました。中でも、地域交流やボランティア活動を積極的に行う「どこでんいく隊」の活動に参加したことは非常に印象に残っています。仕事をお持ちの方も多く、皆さん忙しい中で時間をつくって活動されているにもかかわらず、「疲れた、しんどい」という雰囲気はどこにもなく、活動すること自体を楽しんでいるような姿を見ることができ、支援するはずが逆に多くのことを教えられた気がしました。大きな活動はできませんが、私も楽しんで長く続けられる活動を行いたいと思っています。



西日本コベルコ建機(株)CSR委員
高原 みゆき

編集後記

東京オリンピックと常若

全社CSR委員長 中田 雅彦

昨年、伊勢神宮の遷宮が行われた。伝統にのっけながらも最新技術で継承され常若が続いていく。2020年東京オリンピックに向けて、社会全体が次世代に向けて活性化していく。人も企業も社会も新陳代謝を繰り返しながら常若が続く。CSR活動も身の丈にあった地道な活動を続けて、笑顔が広がっていくことを願う。

“気づき”それがCSR活動の楽しさです

CSR推進グループ長 宮尾 卓司

今年も春の訪れとともに桜が満開になりました。この季節は近所の桜並木を散歩すること多く、普段目に入らないものに気がつくことがあります。CSR活動も同じ。通常の業務では見落としがちなものに気づくことができ、そこに楽しさを感じています。この報告書が、手に取った方々の気づきのひとつになれば、と思います。

輪の広がりを改めて実感!

CSR推進グループ 天野 豪

今年から本報告書の制作に携わりました。単に原稿を作成するのではなく、2013年度に実施した活動をわかりやすく、少しでも多くの方に伝えることができるように心がけて制作しました。その中でCSR活動の輪の広がりを改めて実感しています。今後も地域に根づいた活動を継続させて浸透させます。